

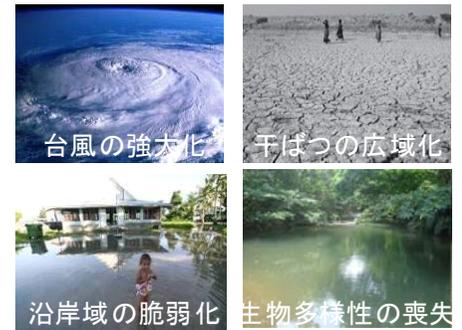
気候変動リスク情報創生プログラム（仮称）

背景

- 我が国は地理的条件から自然災害に度々見舞われており、東日本大震災からの復興に向けて、自然災害リスクを正確に評価することが急務
- 気候変動により、社会インフラ（台風、集中豪雨等）・エネルギー（CO₂排出量削減量等）・食糧（干ばつ、気温上昇等）といった、生活基盤にかかわり、持続的発展を阻害するリスクが増大
- エネルギー戦略の転換が検討される中、国際的枠組において気候変動対策の適切な目標値設定のために、リスクの評価が重要

課題

- 気候変動予測技術を活用した、リスクマネジメント（特定、生起確率・影響の評価、回避）の基盤情報の構築
 - ・従来は予測結果の信頼性評価に関する取組が十分でなく、リスクの特定や生起確率に関する情報提供がない
 - ・今後は経済的影響等の詳細な評価を災害、エネルギー、水資源、農業、健康、生態系の各分野において、リスクマネジメントに必要な影響評価に関する情報提供が必要



方針

【①直面する地球環境変動の予測と診断】

- ・二酸化炭素や大気化学を含んだ地球環境予測を実施
- ・今後数年～数十年で直面する気候変動を精密予測
- ・気候変動の特定とメカニズム解明を実施

【②安定化目標値設定に資する気候変動予測】

- ・GHG排出シナリオに基づく地球環境予測を実施
- ・気候安定化までの長期的な気候変動を精密に予測
- ・今後想定される人類の活動、温室効果ガス排出量の変化に伴う気候変動を把握

【③気候変動リスク情報の基盤技術開発】

- ・気候変動予測の確率情報を算出
- ・低頻度だが、甚大な影響を及ぼす事象の特定
- ・予測情報・影響評価情報に基づくリスク情報の創出
- ・リスク情報の正確な理解・共有の促進

【④課題対応型の精密な影響評価】

- ・持続的発展に係わる課題について、精密な影響評価を実施（自然災害、水資源、生態系サービス等）
- ・被害額等の経済的影響を把握し、リスクマネジメントの「費用対効果」分析に資する

【⑤研究成果の国際展開・共同研究の実施】

- ・アジア メガデルタ等気候変動に脆弱な地域が存在
- ・多くが発展途上国で、予測・影響評価技術やリスク情報が不足
- ・成果を活用した国際的連携研究・技術協力を実施

- 気候変動に関する予測・影響評価技術を高度化し、リスクマネジメントに資する情報を創出
- 地球温暖化に関する、グローバル（安定化目標等）からリージョナル（適応施策等）までの対策に貢献
- 途上国等の気候変動に脆弱な地域への情報提供・技術協力による国際貢献

